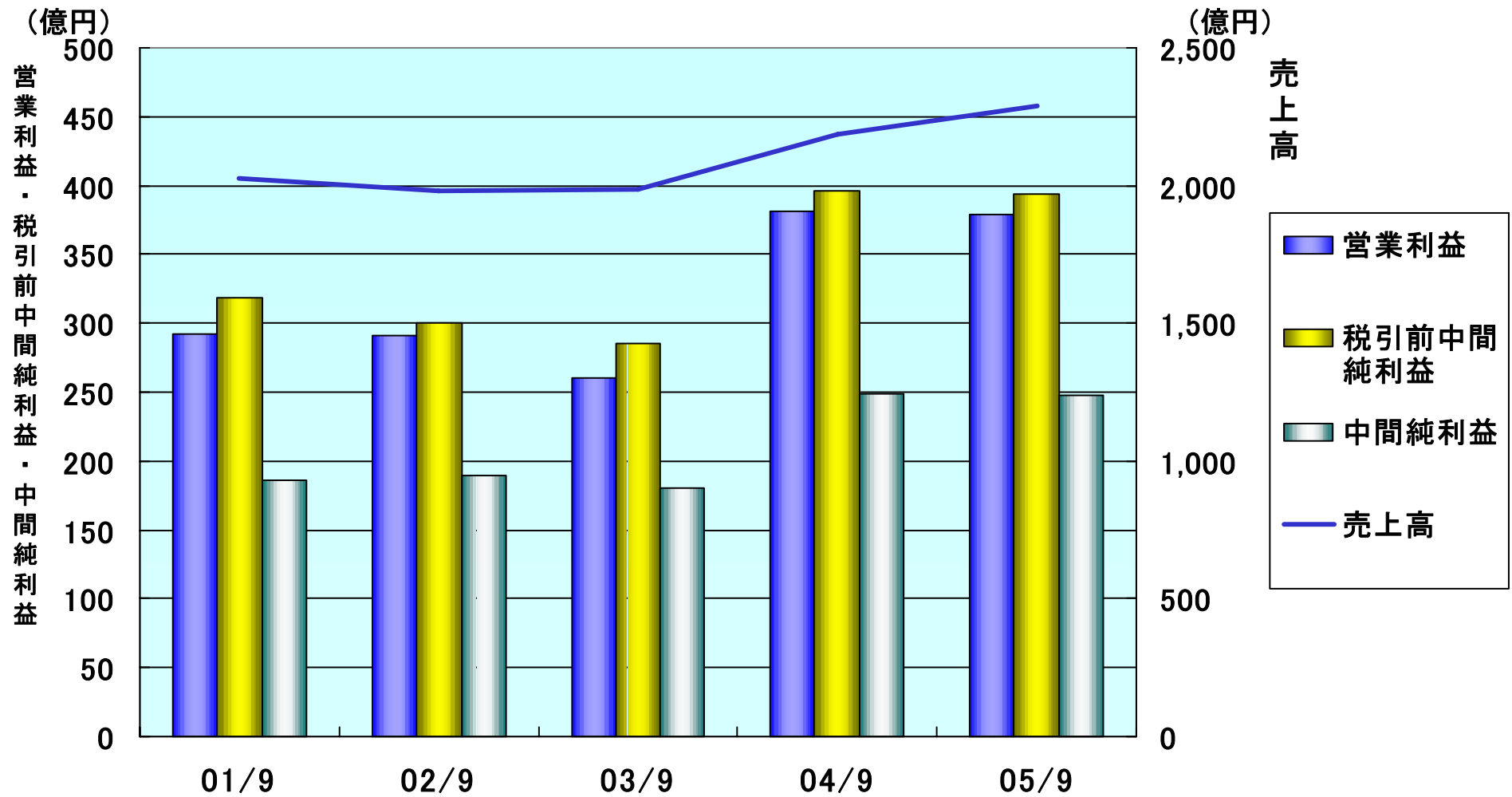


# 2006年3月期 中間決算説明会

*muRata*

村田製作所

# 当中間期の業績概要(連結)



# 当中間期の業績概要(連結)



- 2005年度上期実績

売上高 2,289億円(前年同期比+4.9%)

2005年9月修正業績予想発表時

2,260億円

2005年4月業績予想発表時

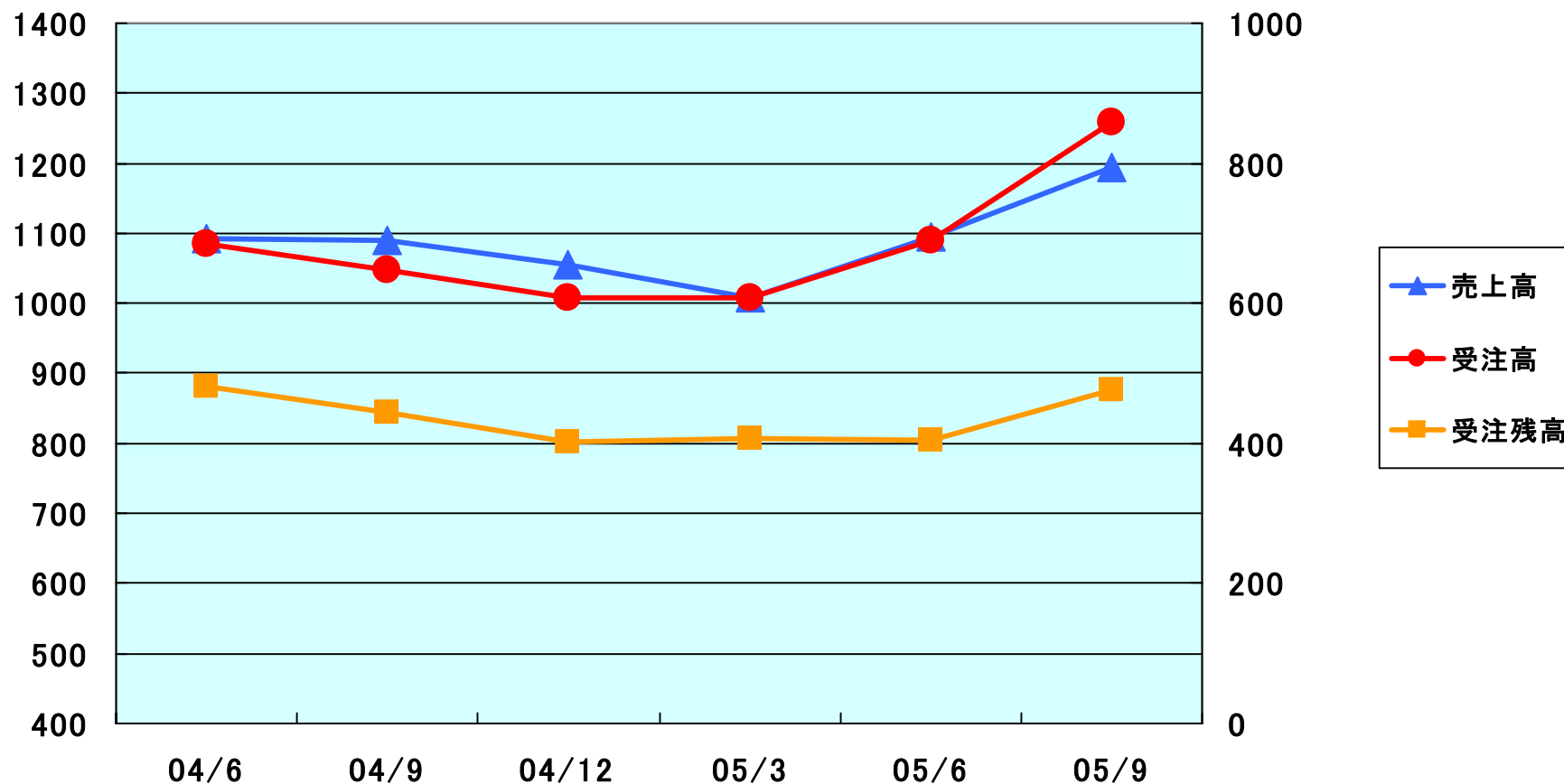
2,150億円

# 四半期の売上・受注・注残推移(連結)



売上高・受注高  
(億円)

受注残高  
(億円)



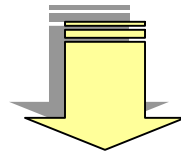
## 《市場別の状況》

- 携帯電話
  - BRICs等の新興地域における販売台数が増加
  - 第3世代機やBluetooth<sup>®(注)</sup>搭載タイプ等の高機能端末の需要拡大
- PC
  - ノートパソコンや周辺機器の需要が好調
- デジタルAV機器
  - 薄型大画面テレビを中心に堅調に推移
- カーエレクトロニクス
  - 先進国での自動車の電装化が進展

(注) Bluetoothは米国Bluetooth SIG, Inc.の商標です

# 当中間期の売上概況

- 電子部品価格の下落の影響が引き続き大きかったものの、携帯電話やパソコンなどの主要電子機器の生産が春先より順調に伸長し、期後半にかけて電子部品の需要は大きく拡大
  - Bluetooth<sup>®</sup> モジュールや、大容量コンデンサや低ESLコンデンサを中心としたコンデンサが増加

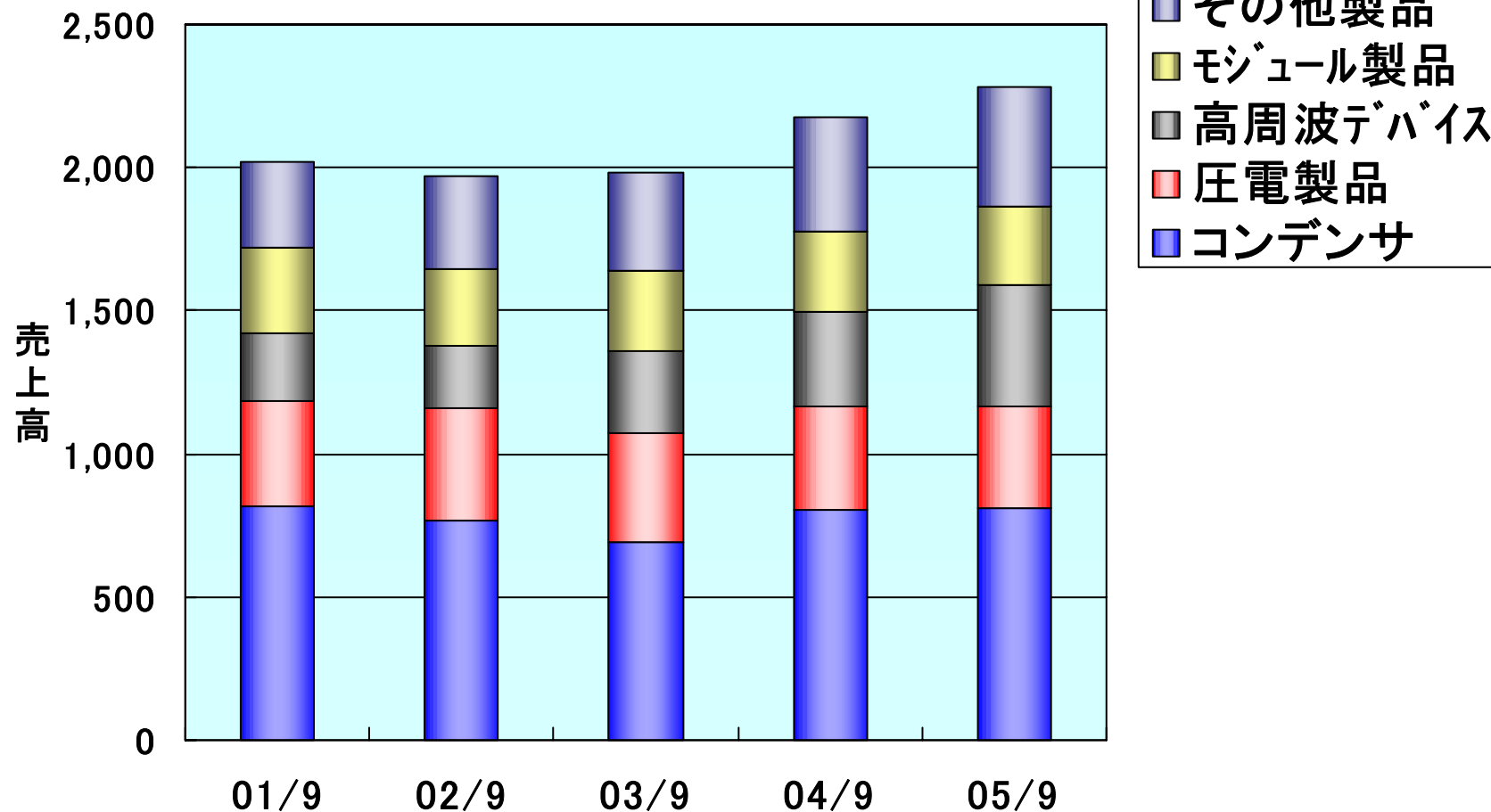


連結売上高 前年同期比+4.9%

# 製品別売上高推移（連結）



(億円)



# 製品別売上高（連結）

## 1) コンデンサ（前年同期比 +1.1%）

### –チップ積層セラミックコンデンサ

- 10  $\mu$ F以上の大容量品の売上が、AV機器向けやコンピュータ及び関連機器向けを中心に全ての用途で大きく伸長した
- 低ESLタイプがコンピュータ及び関連機器向けで増加した
- 製品価格下落の影響を受ける



## 2) 圧電製品（前年同期比 ▲2.8%）

### － 表面波フィルタ

- 通信機器向けが欧米や中国で増加し、前年同期を上回った

### － 圧電センサ

- 小型HDD向けで大幅に増加し、前年同期を大きく上回った

### － セラミック発振子

- AV機器向けやコンピュータ及び関連機器向けで減少し、前年同期を下回った

### － セラミックフィルタ

- 通信機器向けを中心に大きく減少し、前年同期を下回った

## 3) 高周波デバイス（前年同期比 +29.3%）

### – Bluetooth<sup>®</sup> モジュール

- 携帯電話向けで大幅に伸長し、前年同期に比べ約3倍となった

### – 多層デバイス

- モジュール製品、チップタイプともに通信機器向けで減少し、前年同期を下回った

### – アイソレータ

- 日本及び韓国向けの通信機器で減少し、前年同期を下回った

### – 誘電体フィルタ

- 第3世代向けのデュプレクサは増加したが、基地局向けのフィルタが減少した

## 4) モジュール製品（前年同期比 ▲1.6%）

### － 電源

- 液晶テレビなどのAV機器向けが伸び、前年同期を大きく上回った

### － 回路モジュール

- 電圧制御発振器（VCO）は、無線LAN向けで増加
- 小型無線LANモジュールの売上が、デジタルスチルカメラ向けで増加
- 通信機器用サブモジュールやPHS用RFモジュールが減少

# 製品別売上高（連結）

## 5) その他製品（前年同期比 +3.9%）

### – EMI除去フィルタ

- 通信機器向けで好調に推移した

### – チップコイル

- HDD向けが増加したものの、日本の通信機器向けで減少し、前年同期を下回った

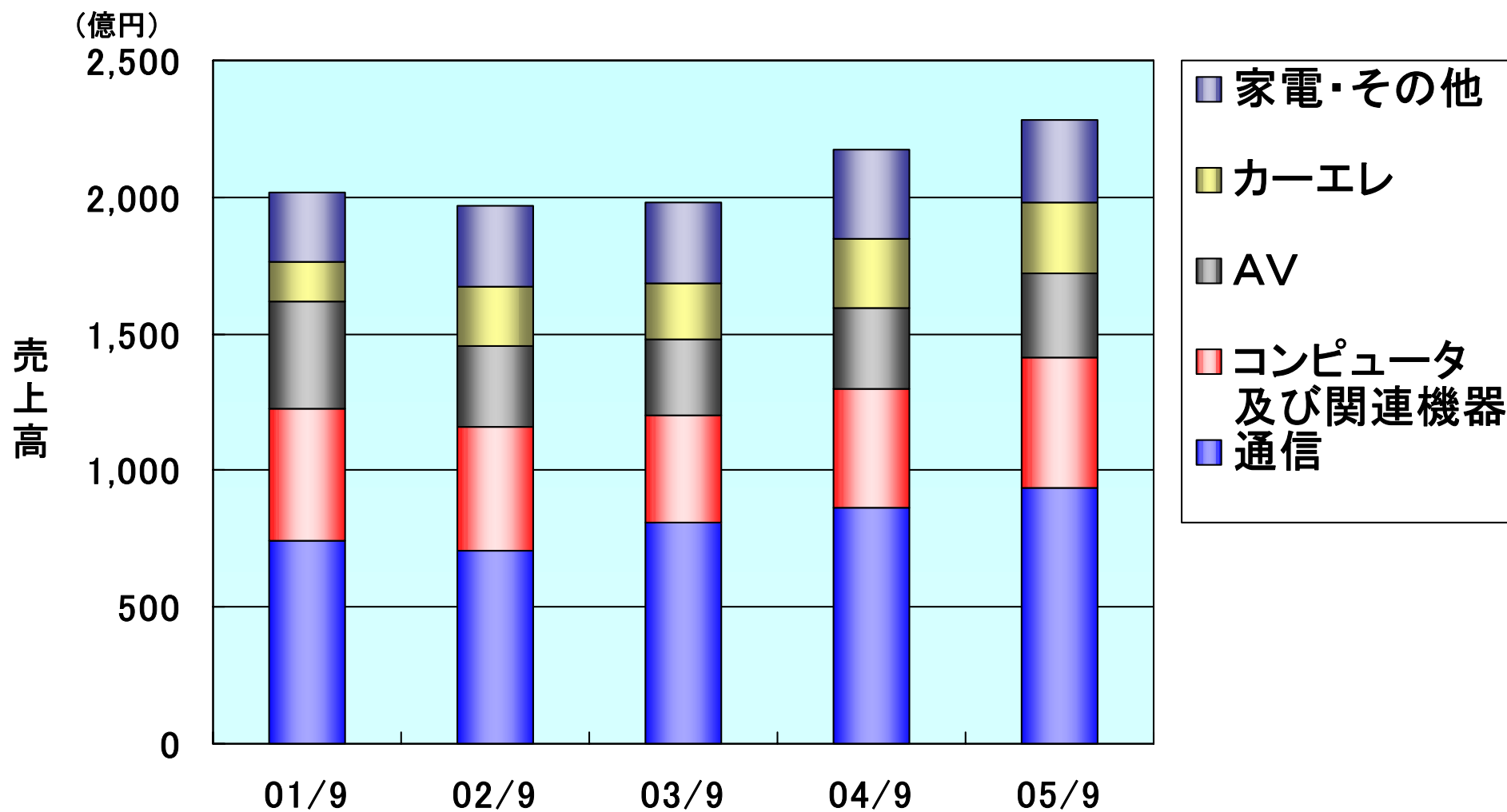
### – ジャイロ

- デジタルビデオカメラ、デジタルスチルカメラ向けで大きく増加し、前年同期を大きく上回った

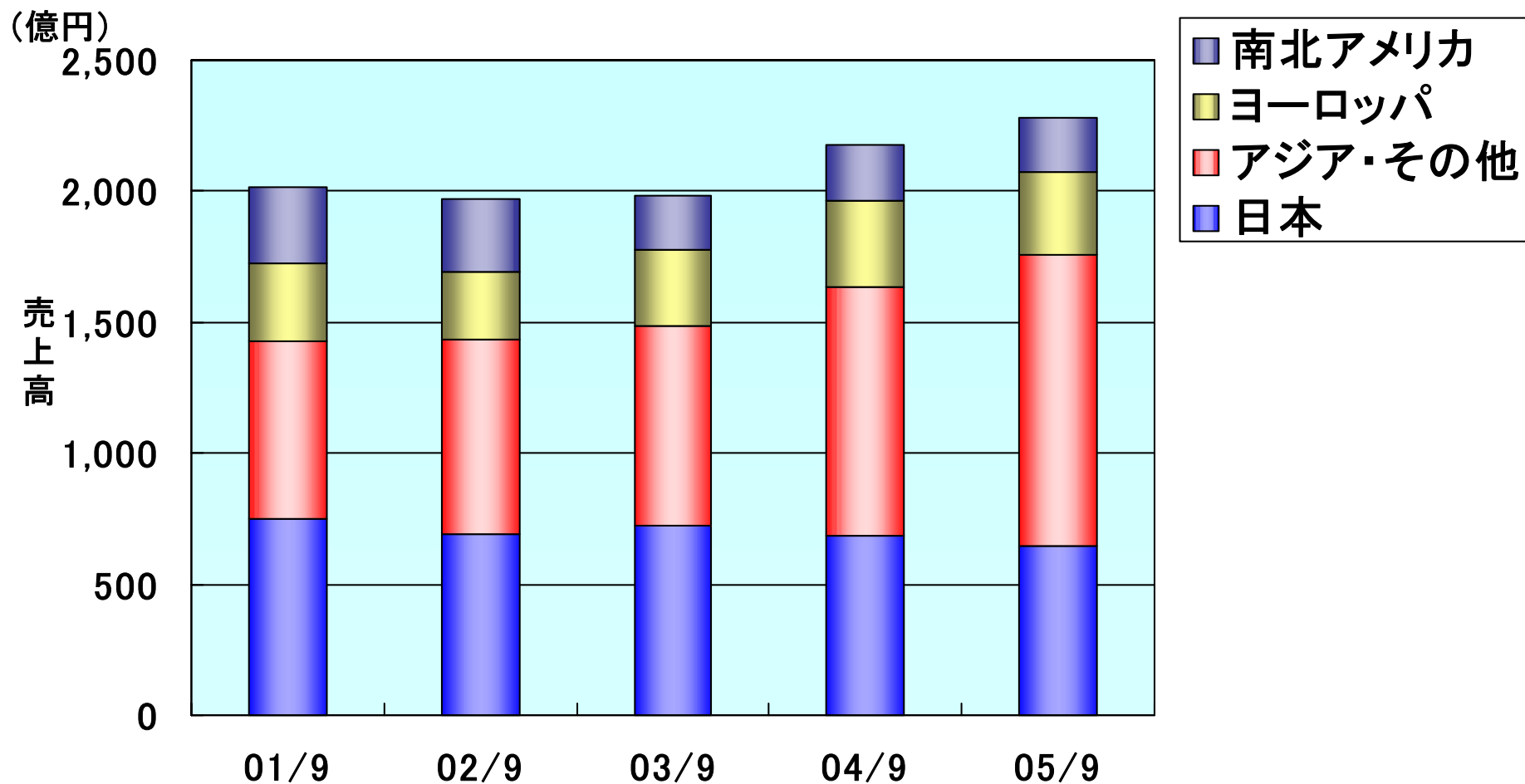
### – 抵抗器

- サーミスタや高圧抵抗器が落ち込み、前年同期を下回った

# 用途別売上高推移（連結）



# 地域別売上高推移（連結）



## 1) 通信（前年同期比 +7.9%）

### － 携帯電話向け

- BRICs等の新興地域で好調
- 先進国における第3世代機やBluetooth<sup>®</sup>搭載タイプなどの高機能端末の需要が拡大した
- 仕向地としては、中国、韓国向けが大きく伸長した

### － その他通信

- 無線LAN向けが増加したものの、基地局向けやPHS向けが振るわず前年同期を下回った

## 2) コンピュータ及び関連機器（前年同期比 +10.2%）

### －PC向け

- PCの生産台数の伸長により、大容量コンデンサや低ESLコンデンサが大きく伸長した

### －周辺機器向け

- HDD向けで、ショックセンサや大容量コンデンサの需要が拡大した



## 3) AV機器（前年同期比 +3.9%）

### －映像機器向け

- 液晶テレビ向けやゲーム機向けが好調に推移した
- デジタルスチルカメラ向けが手ブレ防止用ジャイロを中心に大きく伸長した

### －音声機器向け

- 携帯型デジタルオーディオプレーヤー向けが大きく増加した

# 用途・地域別売上高（連結）

## 4)カーエレクトロニクス(前年同期比 +2.4%)

- 自動車の電装化の進展や安全機器装置の充実、カーナビゲーションの普及拡大により堅調に推移した
- 大容量コンデンサ、LTCC多層基板、電源が伸長し、Bluetooth<sup>®</sup>モジュールの売上が始まる

## 5)家電・その他(前年同期比 ▲7.8%)

- ディストリビュータ向けを中心に前年同期を下回った

# 地域別売上高（連結）

地域	04／9期	05／9期	増減
日本	685億円	645億円	▲39億円 ▲5.7%
南北アメリカ	211億円	205億円	▲6億円 ▲2.8%
ヨーロッパ	332億円	320億円	▲13億円 ▲3.8%
アジア・その他	948億円	1,111億円	+163億円 +17.2%
合計	2,176億円	2,281億円	+105億円 +4.8%

# 当中間期の利益の概況(連結)

## 《利益増減要因(プラス要因)》

- 操業度の拡大
- 生産性改善、小型化・高機能化・複合化した新製品への置き換え  
(新製品売上高比率38%に)
- 固定資産減損に係る費用の減少

# 当中間期の利益の概況(連結)

## 《利益増減要因(マイナス要因)》

- 減価償却費の増加
  - 2004年上期:196億円 → 2005年上期:204億円
- 販売費及び一般管理費の増加
  - 2004年上期:341億円 → 2005年上期:348億円
- 研究開発費の増加
  - 2004年上期:163億円 → 2005年上期:172億円
- 製品価格の値下がり
  - 2004年上期:5.8% → 2005年上期:8.1%

# 当中間期の利益の概況(連結)

	04／9期 (構成比)	05／9期 (構成比)	増減 (伸率)
売上高	2,183億円 (100%)	2,289億円 (100%)	+106億円 (+4.9%)
売上総利益	886億円 (40.6%)	899億円 (39.2%)	+13億円 (+1.5%)
営業利益	382億円 (17.5%)	379億円 (16.5%)	▲3億円 (▲0.8%)
税引前利益	396億円 (18.2%)	393億円 (17.2%)	▲3億円 (▲0.8%)
当期純利益	249億円 (11.4%)	248億円 (10.8%)	▲1億円 (▲0.3%)

# 四半期毎の業績推移(連結)

	第1四半期	第2四半期	05/9期
売上高	1,096億円 (+0.2%)	1,194億円 (+9.5%)	2,289億円 (+4.9%)
営業利益	174億円 (▲10.9%)	205億円 (+9.8%)	379億円 (▲0.8%)
税引前利益	183億円 (▲10.2%)	210億円 (+9.2%)	393億円 (▲0.8%)
当期純利益	115億円 (▲10.4%)	133億円 (+10.6%)	248億円 (▲0.3%)

※ ( )は、前年同期比伸び率

## 予測部品需要台数<携帯電話>

6.9億台(期初予想) → 7.5億台(今回予想)

(単位:百万台)

	04F			05F			通期
	上期	下期	計	上期	下期	計	
販売台数	282	319	601	334	353	687	14%
部品需要台数	318	332	650	373	377	750	15%

(※当社推定値)



## 予測部品需要台数<PC>

176百万台(期初予想) → 202百万台(今回予想)

(単位:百万台)

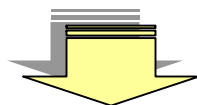
	04F			05F			通期
	上期	下期	計	上期	下期	計	
メーカ一生産台数	83	87	170	93	95	188	11%
部品需要	87	88	175	100	102	202	16%

(※当社推定値)

# 直近の受注状況と今後の見通し(連結)

- 全体の受注状況及び見通し

- 8月から急激に拡大しており、9、10月も高い水準を維持
- 海外の大手携帯電話メーカーのフォーキャストは高い水準が続いているが、前倒し受注で、実需以上の可能性



- 12月より一旦減少し、来年の春先以降立ち上がる

- 製品・用途別の受注状況

- 海外大手携帯電話メーカーからのBluetooth<sup>®</sup>モジュールが好調、チップ積層セラミックコンデンサも好調に推移
- 携帯電話向けが好調に推移、パソコン、MPU、HDD向け受注も好調

# 通期の業績予想（連結）

	上期(実績)	下期	通期
売上高	2,289億円 (+4.9%)	2,311億円 (+12.1%)	4,600億円 (+8.4%)
売上総利益	899億円 (+1.5%)	916億円 (+14.1%)	1,815億円 (+7.5%)
営業利益	379億円 (▲0.8%)	401億円 (+28.0%)	780億円 (+12.2%)
税引前利益	393億円 (▲0.8%)	417億円 (+25.3%)	810億円 (+11.1%)
当期純利益	248億円 (▲0.3%)	262億円 (+20.6%)	510億円 (+9.5%)

※1 2005年度下期四半期別売上高:10-12月期:1,210億円、1-3月期:1,101億円

※2 半期は前年同期比伸び率、通期は前期比伸び率

- **減価償却費**
  - 上期:204億円 → 下期:241億円 (通期:445億円)
- **販売費及び一般管理費**
  - 上期:348億円 → 下期:337億円 (通期:685億円)
- **研究開発費**
  - 上期:172億円 → 下期:178億円 (通期:350億円)

- **設備投資**
  - 上期:216億円 → 下期:294億円 (通期:510億円)
- **為替レート**
  - 上期平均:109.48円/US\$ → 下期:110円/US\$
- **値下がり率**
  - 上期:8.1% → 下期:5%程度

# 業績予想の前提

(単位:億円, %)

	05F1 実績		05F2 予想		05F2/05F1 増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	伸率 (%)
売上高	2,289	100	2,311	100	+22	+0.9
売上総利益	899	39.2	916	39.6	+17	+1.9
営業利益	379	16.5	401	17.4	+22	+5.8
税前利益	393	17.2	417	18.0	+24	+6.0
当期利益	248	10.8	262	11.3	+14	+5.7

## (プラス要因)

- ・生産性の改善
- ・上期一括費用の計上

## (マイナス要因)

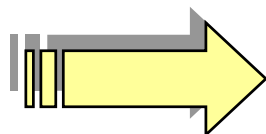
- ・製品価格の値下がり
- ・減価償却費の増加

# 用途別売上予想（連結）

	05F1実績	05F2予想	05F予想(前期比)	
	前年同期比	上期比	今回予想	前回予想(05/4)
AV	+3.9%	▲10%程度	+5%程度	横ばい
通信計 (内携帯電話)	+7.9% (+15.6%)	0~+5% (+5~10%)	+10~15% (+20%程度)	+5~10% (+10%程度)
コンピュータその他	+10.2%	横ばい	+10%程度	+5%程度
カーエレクトロニクス	+2.4%	0~+5%	0~+5%	+5%程度
家電その他	▲7.8%	横ばい	横ばい	横ばい
全社	+4.8%	+1.0%	+8.4%	+4.8%

## • 通信

- Bluetooth<sup>®</sup> モジュールは、大手得意先の採用が広がっており、2005年度の売上高は、前期に比べ、約2.5倍になる見通し
- 第3世代携帯電話の生産台数も、3千万台から6千万台以上に拡大

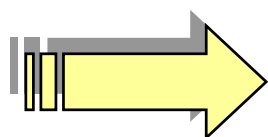


前期比 +10~15%を想定

(内、携帯電話向けは前期比 +20%程度を想定)



- コンピュータ及び関連機器市場
  - PCの生産販売台数の増加
  - MPUのデュアルコアチップ化による大容量コンデンサや低ESLコンデンサの需要増加
  - HDDの台数増加によるショックセンサの売上増加

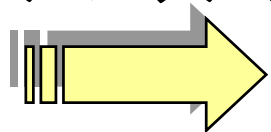


前期比+10%程度を想定

# 用途別売上予想（連結）

- AV機器

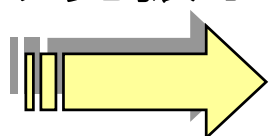
- 液晶テレビやPDPなど薄型テレビ向けで電源が伸長
- デジタルスチルカメラ向けで手ブレ防止用のジャイロの増加



前期比 +5%程度を想定

- カーエレクトロニクス

- 電装化率が引き続き上昇することにより、コンデンサ、セラミック発振子、LTCC多層基板の需要増加



前期比 0～+5%を想定

# 製品別売上予想（連結）

	05F1実績	05F2予想	05F予想(前期比)	
	前年同期比	上期比	今回予想	前回予想(05/4)
コンデンサ	+1.1%	0～+5%	+5%程度	+5%程度
圧電	▲2.8%	▲5%程度	▲5～0%	横ばい
高周波デバイス	+29.3%	+10～15%	+35%程度	+10～15%
モジュール	▲1.6%	▲5～0%	0～+5%	横ばい
その他	+3.9%	▲5～0%	+5%程度	+5%程度
全社	+4.8%	+1.0%	+8.4%	+4.8%

# 通期の業績予想（単体）

## 1) 売上高

3,970億円（前期比 +10.6%）

## 2) 利益

経常利益 415億円（前期比 ▲0.4%）

当期純利益 325億円（前期比 +7.0%）

- 当期配当金(予定)

1株当たり年間60円(内中間配当30円)

(2004年度より年間10円増配)

※ 当配当金は現時点での通期の事業環境予測及び業績予想に基づいたものであります

- **自己株式の取得** (商法第210条および商法第211条3第1項第2号の規定に基づく)

- **取得実績**

- **2005年度上期実績**

281万株、156億円の自己株式を取得

【2005年7月27日開催の取締役会にて決議した取得枠の取得状況】

取得株式総数 : 300万株(上限) ⇒ 173万株(2005年上期実績)

取得価額の総額: 150億円(上限) ⇒ 96億円(2005年上期実績)

- **2002年6月以降**

累計 2,233万株、1,229億円の自己株式を取得

(⇒1,900万株を消却済)

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

